

e-20) クロヒゲアオゴミムシ

i) 重要性

本種は、「環境庁報道発表資料 無脊椎動物(昆虫類、貝類、クモ類、甲殻類等)のレッドリストの見直しについて(環境庁 平成 12 年 4 月)」⁵⁾や「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物 - レッドデータブックさが - (佐賀県環境政策局環境企画課 2000 年 12 月)」⁶⁾に掲載されていないが、「環境条件の変化によって、絶滅が危惧される種に移行し得る属性を有しているが、生息状況をはじめとして、状況を判定するに足る情報が得られていない種である」という専門家の指摘により重要な種とした。

ii) 生態

本種は、本州、四国、九州に分布する⁴⁷⁾。佐賀県内の分布に関する詳細な情報は得られなかった。

やや山地の河原に生息する⁴⁷⁾。山地の溪流の汀で石の下にすむ⁴⁸⁾。

iii) 調査結果

調査による確認地点を図 4.1.5-7(17)に示す。

本種については、詳細な位置情報等の記録がないが、平成 9 年度に東畑瀬集落南周辺において確認された記録がある。

生態情報及び確認状況から、本種は、山地の河原に局地的に生息すると考えられる。

e-21) トゲアシゴモクムシ

i) 重要性

本種は、「環境庁報道発表資料 無脊椎動物(昆虫類、貝類、クモ類、甲殻類等)のレッドリストの見直しについて(環境庁 平成 12 年 4 月)」⁵⁾や「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物 - レッドデータブックさが - (佐賀県環境政策局環境企画課 2000 年 12 月)」⁶⁾に掲載されていないが、「環境条件の変化によって、絶滅が危惧される種に移行し得る属性を有しているが、生息状況をはじめとして、状況を判定するに足る情報が得られていない種である」という専門家の指摘により重要な種とした。

ii) 生態

本種は、北海道、本州、九州に分布する⁴⁷⁾。佐賀県内の分布及び種の生態に関する詳細な情報は得られなかった。

iii) 調査結果

調査による確認地点を図 4.1.5-7(18)に示す。

本種は、平成 9 年度及び 13 年度の調査において、大野地区の音無周辺 1 地点、嘉瀬川の畑瀬橋付近 1 地点、合計 2 地点で生息が確認された。

確認地点の環境は、神社の境内及び放棄水田であった。

本種の生息環境については、生態情報が得られなかったため、不明である。

e-22) アイヌハンミョウ

i) 重要性

本種は、「環境庁報道発表資料 無脊椎動物(昆虫類、貝類、クモ類、甲殻類等)のレッドリストの見直しについて(環境庁 平成 12 年 4 月)」⁵⁾や「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物 - レッドデータブックさが - (佐賀県環境政策局環境企画課 2000 年 12 月)」⁶⁾に掲載されていないが、「生息地の破壊が進んでおり、衰亡傾向にある」という専門家の指摘により重要な種とした。

ii) 生態

本種は、北海道、本州、四国、九州に分布する⁴⁷⁾。佐賀県内の分布に関する詳細な情報は得られなかった。

河原に近い所で局地的に見られる⁴⁷⁾。砂質の地面にすみ、川原の近く等に見られるが、各地での生息場所は比較的限られている⁴⁹⁾。成虫は春から夏にかけて現れ、地表にいて他の虫を捕えて食べる⁴⁹⁾。幼虫は他のハンミョウと同様に砂質の土地に縦穴を作るものと思われる⁴⁹⁾。おそらく成虫、幼虫とも越冬する⁴⁹⁾。

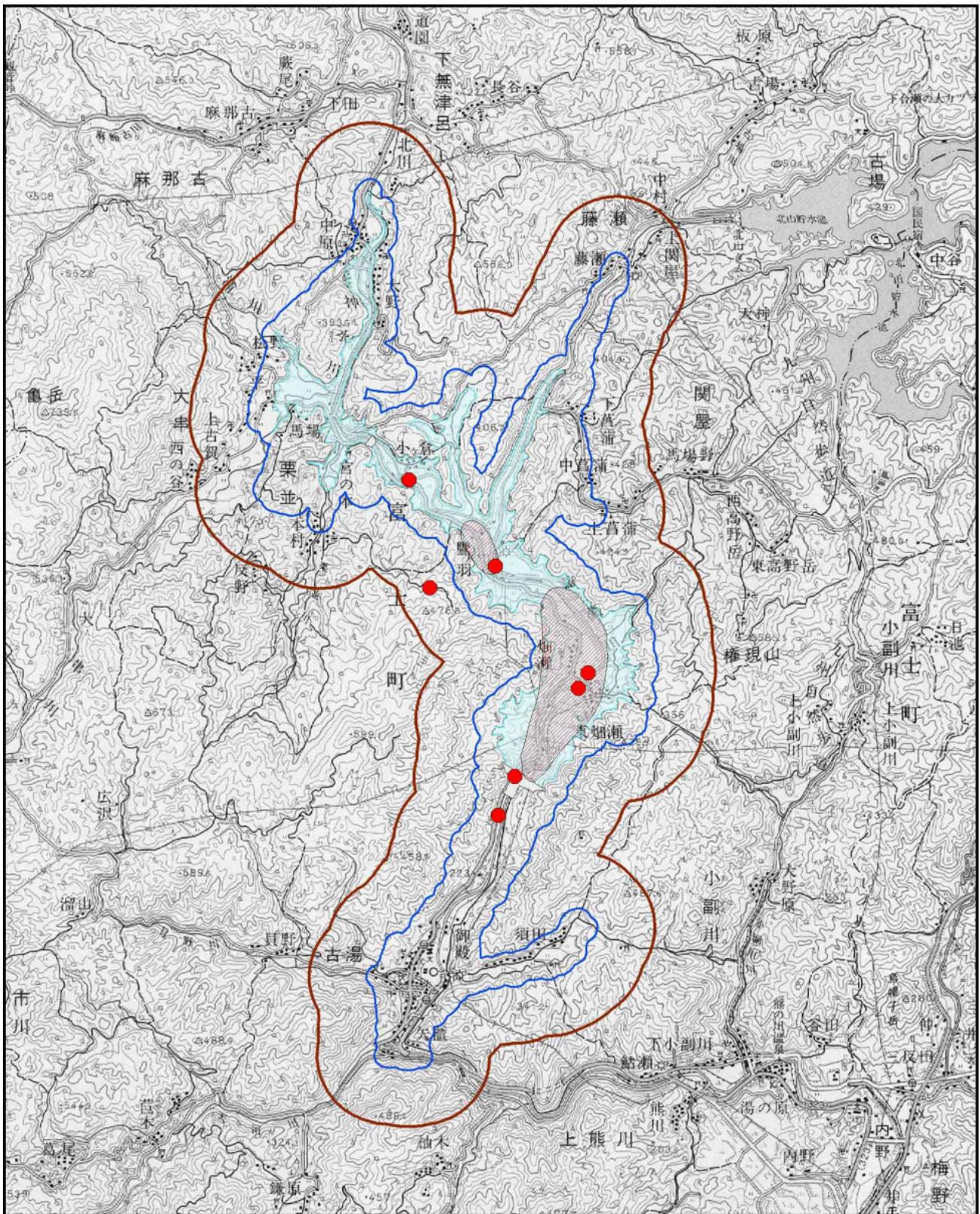
iii) 調査結果

調査による確認地点を図 4.1.5-7(19)に示す。

本種は、平成 14 年度の調査において、栗並地区の鷹ノ羽集落南西の山間部 1 地点、嘉瀬川の川上川第三ダム下流 1 地点、畑瀬橋付近 2 地点、川上川第二ダム下流 2 地点、神水川の小ヶ倉橋付近 1 地点、合計 7 地点で生息が確認された。また、詳細な位置情報等の記録がないが、平成 9 年度に東畑瀬集落南周辺及び鷹ノ羽集落周辺において確認された記録があり、文献⁵⁰⁾においては畑瀬で確認された記録がある。

確認地点の環境は、本川沿いや沢沿いの砂地等であり、1 個体ずつ散発的に確認された。

生態情報及び確認状況から、本種は、当該地域において、確認地点付近の河原、支川や沢筋の砂地に局地的に生息すると考えられる。



凡 例

-  : ダム堤体
-  : 副ダム
-  : 貯水予定区域
-  : 対象事業実施区域
-  : 調査地域

-   } : 確認地点



1:50,000

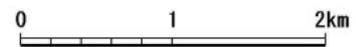


図4.1.5-7(19)
アイヌハンミョウ確認地点

*: この範囲内で確認した記録がある。

e-23) クビボソコガシラミズムシ

i) 重要性

本種は、「環境庁報道発表資料 無脊椎動物(昆虫類、貝類、クモ類、甲殻類等)のレッドリストの見直しについて(環境庁 平成 12 年 4 月)」⁵⁾や「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物 - レッドデータブックさが - (佐賀県環境政策局環境企画課 2000 年 12 月)」⁶⁾に掲載されていないが、「環境条件の変化によって、絶滅が危惧される種に移行し得る属性を有しているが、生息状況をはじめとして、状況を判定するに足る情報が得られていない種である」という専門家の指摘により重要な種とした。

ii) 生態

本種は、北海道、本州、四国、九州に分布する⁴⁷⁾。佐賀県内の分布に関する詳細な情報は得られなかった。

本種の生態に関する詳細な情報は得られなかったが、本種の属するヒメコガシラミズムシ属の仲間はほとんどが止水性で、特に水草や藻類の多く繁殖している水域に生息している⁵¹⁾とされる。

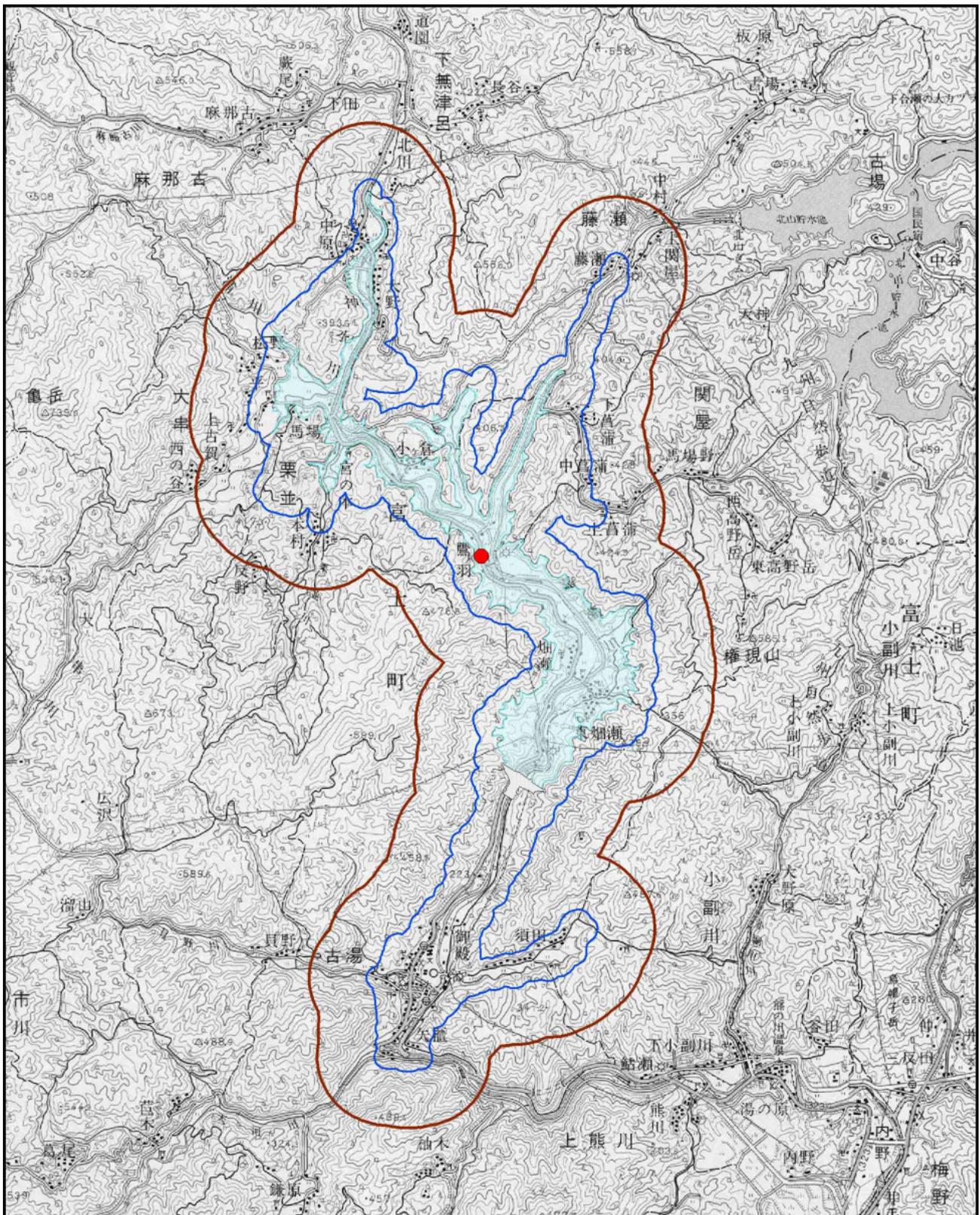
iii) 調査結果

調査による確認地点を図 4.1.5-7(20)に示す。

本種は、平成 9 年度の調査において、栗並地区の鷹ノ羽集落周辺 1 地点で生息が確認された。

確認された環境は造成地であるが、ライトトラップによる確認であり、周辺の止水環境から飛来した可能性がある。

生態情報及び確認状況から、本種は、当該地域において、鷹ノ羽集落周辺の止水環境に生息している可能性がある。



凡 例

-  : ダム堤体
-  : 副ダム
-  : 貯水予定区域
-  : 対象事業実施区域
-  : 調査地域
-  : 確認地点



1:50,000



図4.1.5-7(20)
クビボソコガシラミズムシ
確認地点